前島　密

そしてもう一人、津有の歴史を語る上で重要な人物。
それは「前島 密」です。

現在の上越市下池部の上野家に生まれ、房五郎と名づけられました。

生後間もなく父が他界し、母と二人で長く暮らしていました。下池部や高田で過ごした幼少期に、母から教育を受けた経験が、その後の偉業につながっていったのでしょう。

それゆえ、彼はふるさとを愛していました。「非常に生まれ育った土地に対する思いが強かった。生まれ故郷のことと言えば、何をおいても協力を惜しまなかった。郷里の人から頼まれごとをされると、どんなことでも嫌とは言わなかった」そうです。

その一つの表れとして、津有地区の小中学校には、今も前島 密ゆかりの品が残されています。そのほか、各小学校に寄付金を送ったとする記録もあります。

今も津有に残るゆかりの品とともに、彼の足跡を紹介します。

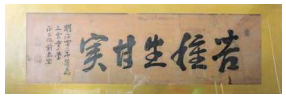
小中学校に残るゆかりの品

戸野目小学校

「惇信明義（とんしんめいぎ）」

人間の行うべき道筋を明らかにし、信じて疑わず勉むこと。

上雲寺小学校



「苦種（くしゅ）は
甘実（かんじつ）を生む」

苦い種から甘い実が生まれる。
苦難に耐えてよい結果が生まれる。

雄志中学校

生家近くにあり、掛け軸と共に胸像が残されている。

各地を旅した足跡

前島 密の生涯は、旅の連続でした。その始まりは「津有」。
その功績が記された石碑もまた、「津有」に残されています。

▲前島密の詳しい
功績はこちら

［津有］　4歳

下池部に生まれ、高田城下に移り住む。
母、貞から教育を受ける。

［糸魚川］　7歳

母と共に
叔父の勧めで糸魚川へ。
医学を志す。

［津有］　10歳

母と別れ、
下池部の実家から高田の
倉石塾まで歩いて通う。

［江戸（東京）］　12歳

単身、蘭学医を目指して、
苦労しながら勉学に励む。

［横須賀］　18歳

ペリー来航。
国家の重大事に尽くす
決心を固める。

［西日本各地見聞］　19歳

旅の途中で帰郷し、
母から激励の言葉を
かけられる。

［函館］　23歳

帆船で二度の日本
周回を経験する。

［鹿児島］　30歳

教師として、若者
に英語を教える。

［静岡］　33歳

維新後、旧幕臣として
社会福祉に貢献する。

［東京］　35歳

政府に出仕し、近代国
家建設の立案をする。

［イギリス］　35歳

先進国に赴き、郵便
制度などを学ぶ。

［東京］　37歳

前島の説得により、郵便業務
を請け負う会社が設立する。

［東京］　52歳

東京専門学校（現在の早稲田
大学）の校長に就任する。

男爵前島密君生誕之処　子爵　渋沢栄一　書
石碑の裏側には、
「日本文明の一大恩人がここで生まれた」から始まる
前島密の功績を称える碑文が刻まれています。

［津有］
地元の人達が、
密の功績を称
え、石碑を建立

私のふるさと
津有。
ここに暮らし
ていることを
誇りに思って
ほしい。